

いざというとき慌てず行動するため

万全ですか 風水害の備え

水害は本市でも発生

本市は、「水と緑と詩のまち」といわれるように、市内を利根川や広瀬川、桃ノ木川などが流れています。これらの河川が都市景観には大きな影響を与えています。

しかし、古くから本市でも水害が多く発生しています。特に昭和二十二年のカスリン台風では、市内の大きな面積を占める旧利根川流域地帯のほとんどが水没しました。

また、このカスリン台風の翌年の昭和二十三年にアイオン台風、同二十四年のキティ台風と三年連続して、台風の被害を受けています。最近では、昭和五

十六年の台風15号、同五十七年の台風10号、同五十八年の台風18号などが、大きな被害をもたらしました。

昭和六十一年以降は、雷雨による集中豪雨から発生する浸水害が多く見られます。特に平成九年九月の集中豪雨では、一時間の降水量が100を超え、四百件以上の建物などに被害が発生しました。

昨年は台風11号・15号が関東地方に上陸。本市は直撃を受けませんでした。台風を取りまく雨雲で長時間にわたる大雨となり、床下、床上浸水などの被害が発生しました。

注意しよう集中豪雨

狭い地域に短時間で集中して降る「集中豪雨」は、中小河川のはんらんや土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害が予想

されます。がけ付近や造成地、扇状地などでは、気象情報に十分注意して、万全の防災対策をとるようにしましょう。



大正12年9月1日に発生した関東大震災の教訓を生かすために、毎年9月1日は防災の日に定められています。地震も大きな被害をもたらしますが、これからの季節は、台風などに伴って大雨の被害が発生しやすくなります。風水害への備えを再確認しましょう。